

題 目： 東アフリカ牧畜社会における不確実性への対応とリスクマネジメント

発表者： 孫 暁剛（京都大学東南アジア研究所・特定研究員）

関連ミッション： ミッション1（環境計測・地球再生）

要 旨：

アフリカの生業牧畜民のほとんどは自然条件が厳しく農耕に適さない地域に暮らしている。干ばつ、家畜の伝染病、掠奪、戦争、政治的・経済的な不安定などさまざまな不確実性に対応しながら、人々は少なくとも千年以上にわたって牧畜をつづけてきた。本発表では東アフリカ乾燥地域における長期のフィールドワークにもとづき、牧畜を営む地域の自然環境の特徴と牧畜民の生業戦略を明らかにするとともに、技術優先論にもとづく西洋型の開発の失敗を指摘し、リスクマネジメントの可能性やそれによる牧畜社会の新たな発展について考えたい。

20世紀の後半から、政治的・経済的な自立性が高い生業牧畜社会は、グローバルな世界システムに組み込まれるようになった。その過程で牧畜民がさまざまな問題に直面し、急劇な変化を経験するとともに脆弱性が增大している。

地球規模な環境問題:

乾燥化、砂漠化、異常気象の発生頻度の増加

外的な社会環境の変化:

国家政治・経済システムによる周辺化
市場経済の浸透による社会内部の経済格差の拡大
定住化政策や国境などによる移動の制限
国際機関や政府による大規模な開発援助計画
資源をめぐる民族間の対立、など

内的な社会環境の変化:

人口増加(自然増+人口流入)
資源の私有化
現金経済の拡大
互酬的な社会関係、平等性原理の低下
情報化社会(情報の私有化)、など



2001年小雨季



2002年小雨季

